

産地戦略

実施主体 平松いちご組合みどり推進協議会
 都道府県 静岡県
 対象地域 浜松市
 対象品目 いちご

実施期間 令和7～11年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本地域におけるイチゴ高設栽培では、うどんこ病とハダニ類の発生が課題となっている。うどんこ病は定植時から収穫終了時まで発生が見られ、一度病気が広がると完全に防除することが難しく、果実に発生すると商品価値がなくなってしまうことから、生産現場では作を通じて定期的に化学的防除を行っている。ハダニ類の防除には天敵製剤を活用するのが主流であるが、繁忙期である収穫期に発生すると対応が遅れがちになり大発生を招いてしまうおそれがあることから、定期的に化学的防除も行っている。定期的な農薬散布は労力負担が大きく、また病害虫の薬剤感受性低下が懸念される。そこで、UV-B照射によりうどんこ病及びハダニ類を防除することにより、省力的かつ化学農薬に依存しすぎない防除体系への転換を目指す。

現在の栽培体系

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	備考
主な作業名	←育苗				●定植			→収穫					
技術名					←化学的防除(本ほ:うどんこ病11剤、ハダニ類7剤)				▲天敵放飼				→化学的防除の薬剤のうち、1剤はうどんこ病とハダニ類の両方に登録されている薬剤。

グリーンな栽培体系

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	備考
主な作業名	←育苗				●定植			→収穫					
技術名					←化学的防除(本ほ:うどんこ病6剤、ハダニ類5剤)				▲天敵放飼				→UV-B照射

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	2.8	▶ 3	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.4	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.4	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.4	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ UV-Bランプを活用したIPM	化学農薬の使用量低減 農薬散布時間の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用量低減（剤）	17	▶ 11	成分数、詳細はマニュアルに記載の通り
環境 省力	農薬散布時間の削減（時間）	18h/10a	▶ 11h/10a	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

技術の導入を推進するため、産地戦略及び技術導入マニュアルを活用し、地域への普及に向けた情報発信を行っていく。また、関係機関との情報交換を密にし、より環境にやさしく効果的・省力的な栽培方法確立に向けて検討を進めていく。

関係者の役割

関係者名	平松いちご組合	静岡県（西部農林事務所）	浜松市	パナソニック ライティングデバイス(株)
役割	技術の導入拡大に向けた取組	技術の活用支援、周知、普及	技術の導入支援	技術に関する情報提供

その他